

皮膚科

(1) 到達目標

代表的な皮膚疾患についての基本的な診断・治療を理解する。特に皮疹と全身疾患との関連を考察する。

救急外来での皮膚疾患の初期対応を的確に行えるようにする。

(2) 行動目標（代表的行動）

1) 皮膚科領域における問診

代表的な皮膚疾患を想定して簡潔・明快に問診をとることができる。

2) 記載皮膚科学

原発疹と続発疹の性状を正確に捉え表現することができる。

3) 皮膚科領域における各種検査

皮膚科領域で行われる検査について、その検査の目的と必要性を理解し、ある程度行える。

4) 皮膚科領域における薬物治療

日常でよく遭遇する皮膚科疾患の薬物療法について、その適切な使用法を理解する。

5) 皮膚科領域における手術治療

各種皮膚科疾患における手術療法のそれぞれの目的と必要性について理解する。簡単な小手術に関してはある程度行える。

(3) 経験目標

1) 診察法

① 皮疹の視診・触診を適切に行い、カルテに原発疹と続発疹を正確に記載でき、鑑別疾患をあげられる。

2) 検査

① 糸状菌など病原微生物の直接鏡検の適応を決め、適切に行える。

② 一般的な皮膚疾患については、皮膚生検の適応を決め、適切に行える。

③ 鑑別疾患を想定し、必要十分な血液検査項目をオーダーできる。

3) 基本的手技

① 創部洗浄、ガーゼ・被覆剤の交換を実施できる。

② 抜糸を行える。

③ 手術助手ができる。

④ 簡単な小手術をある程度行える。

4) 外用薬治療

① ステロイド外用薬について、疾患・患者年齢・部位などによりある程度使い分けられる。

② 熱傷・褥瘡治療外用薬について、創部の状態などによりある程度使い分けられる。

(4) 方略（LS）

1) 初診患者の予診をして視診・触診を行い、適切に原発疹と続発疹をカルテに記載でき、鑑別疾患をあげる。必要な検査と治療も考える。

2) 指導医・上級医と共に糸状菌、疥癬など病原微生物の直接鏡検を行う。

3) 指導医・上級医と共に皮膚生検を行う。

4) 指導医・上級医と共に創部洗浄、ガーゼ・被覆剤の交換を行う。

5) 指導医・上級医と共に抜糸を行う。

6) 手術助手をする。

7) 指導医・上級医と共に簡単な小手術を術者として行う。

(5) 評価（EV）

1) 研修医は、ローテート終了時に自身の研修達成度を確認しながら、自己評価を行う。

2) 指導医あるいは上級医は、全ての行動目標に対して、観察記録あるいは口頭試験などによ

る形成的評価を適宜行う。目標によっては必要に応じて看護師など医師以外の評価者も観察記録による形成的評価を行う。総合的な評価結果はローテーション終了時にfeed backされるとともに、オンライン臨床研修評価システムにて記載される。

- 3) 指導医は提出された病歴要約により、経験すべき症候・疾病・病態に関する理解度について形成的評価を行う。

【週間スケジュール例】

	月	火	水	木	金
午前	外来見学/診察	外来見学/診察	外来見学/診察	外来見学/診察	外来見学/診察
午後	検査・外来手術	検査・外来手術 褥瘡回診	検査・手術	検査・外来手術	検査・手術
夕刻				カンファレンス	